

障害があっても社会貢献！

高等部・就業サービス科で実施中の『虹プロジェクト』が長崎新聞(2025.6.28)に掲載されました。

ミライ on 図書館(県立図書館)とコラボした職場実習と探究学習を掛けあわせた試みです。

生徒には、現代社会で求められている多様性のなかで協働したり、障害のあるなしにかかわらず主体的にコミュニケーションや課題解決に関与したりして、担い手としての意識や、社会に貢献する意識を実践的に学んでほしいと願っています。そして、そのゴールとして、生徒たちが、障害のある自分を大切に生きようとするウェルビーイングへつなぐことです。引き続き、応援をよろしくお願いします！

2025年(令和7年)6月28日 土曜日 紙面編集・渡邊暁生

「障害あっても社会貢献」

新プロジェクト始動

大村 虹の原特支とミライ on 図書館



県立虹の原特別支援学校(大村市宮小路3丁目、分藤賢之校長)高等部就業サービス科は本年度、同市東本町のミライ on 図書館で生徒が実習する「虹プロジェクト」を開始した。分藤校長は「障害がある生徒も社会貢献できると知ってもらえれば」と意気込む。

就業サービス科は地元での職場実習と探究学習を掛け合わせ、企業就職を目指す生徒が所属させた試み。実習を希望する生徒が同館で作業に当たる予定。

バックヤードで図書館の役割について学ぶ生徒ら
＝大村市、ミライ on 図書館

職場実習と探究学習 掛け合わせ

定で、実習内容や期間は生徒自身が図書館とやりとりしながら決定していくという。

同科の2、3年生計15人は5月29日、同館を訪問。バックヤードを見学し、図書館の機能や果たす役割を学んだ。同館の職員は書籍の位置を示す「書ファル」などを説明し、「本探しをぜひ手伝ってほしい。あなたが探した本が、読みたいと願う人のところに届く」と呼びかけた。

生徒らは6月6日、校内で1年生に見学で学んだことを報告した。3年の伊藤友紀さんは「すごくたくさん本があることを知った。貸し出す本を集めてみたい」と語った。3年の石田椿さんは「こんなにたくさん本の中から1冊を見つけ出すってすごい。私も本をほしいと思っている人に『ありがとう』と言ってもらいたい」と話した。分藤校長は「生徒には本を通じ、仕事をして誰かに感謝される経験をしてほしい」と期待する。

同館の加藤盛彦館長は「図書館は誰もが自由に使えるもの。パリアフリーの観点から、生徒が学びやすい環境をつくることは市民サービス向上にもつながる。生徒の主体性のできる限り応援したい」と語った。(宮佐誠太)

「聞く力」、「創る力」、「繋がる力」を大切にして魅力ある虹の原の教育を展開する

- 「R7年度 学校経営方針」でめざす！ -